

1. 授業の概要(ねらい)

経済のグローバル化が急速に進み、日米欧多国籍企業が「世界の工場・世界の市場」化されつつある中国を中心に展開し、中国、インドなど新興多国籍企業も台頭し対外進出を加速している。このように国際経営、企業の国際化、多国籍企業の主体が様々多岐にわたっている。

グローバル化を加速し、企業活動が国際化になっている今日、単純な国内企業活動のみが市場に対応しきれなくなっている。むしろ、企業は競争に勝ち、企業優位性を実現するために、国籍を問わず最適な事業場所を選び、国際経営・生産活動を行なう。

2. 授業の到達目標

国際経営及び日本企業の海外経営に関する基本知識を身につけ、問題の把握力・的確な分析力を養う。

3. 成績評価の方法および基準

授業内試験(テキスト・ノート持込み可)

4. 教科書・参考文献

教科書

テキスト・参考文献は、授業の第1回目に紹介する。

配布プリント

参考文献

吉原 英樹 『国際経営』(4版) 有斐閣

5. 準備学修の内容

テキスト・参考文献を予習・復習してほしい。

6. その他履修上の注意事項

講義の内容にそって、よく理解し、それをその都度参考文献・新しい情報・データによって補ってほしい。
国際経営論Ⅱも履修するように。

7. 授業内容

- 【第1回】 国際経営に関する視点とポイント
- 【第2回】 企業国際化の諸形態・プロセス
- 【第3回】 企業国際経営諸形態・プロセスの選択
- 【第4回】 多国籍企業の理論(1)
- 【第5回】 多国籍企業の理論(2)
- 【第6回】 米欧企業の国際化の特徴
- 【第7回】 米欧企業の国際化のケーススタディ
- 【第8回】 中国など新興多国籍企業台頭
- 【第9回】 外部講師による特別講義—中国企業の国際化および海外事業のケーススタディ
- 【第10回】 日本企業の対中国事業の展開と中国現地経営・生産の主な事例・特徴
- 【第11回】 日本企業の対中国事業の展開のリスクと対応
- 【第12回】 日本企業と中国企業などの企業のアフリカ・海外地域における事業リスクと対応策
- 【第13回】 日本型経営・生産システムの国際移転・普及
- 【第14回】 多国籍企業の国際比較と今後の企業の国際化の行方
- 【第15回】 まとめ・テスト